

【最終章：“叶う気づき”を得る“鏡の視点”】

さてここからは「鏡の視点」というものを伝授致します。

この鏡の視点というものは

- 「停滞した現実を打破する」
- 「長いタイムラグから抜け出す」
- 「願望実現へ現実が一気に動き出す」

そういった“叶うキッカケ”を生んでくれる重要な視点になります。

- ・引き寄せや潜在意識の知識はあるけどなかなか現実が変わらない
- ・あれこれ実践してみているけど、なかなか変化が現れない

↑こういった悩みを抱える人は多いです。

あなたもこのようなことを感じたことはありませんか？僕は結構ありました。

昔の僕は叶うまでのタイムラグがかなり長いタイプだったし、
引き寄せの知識をいれまくってもメソッドをしまくっても全然現実が好転してくれないし、

「本願だけがなぜか叶わない」ということを経験してきました。

これなかなかシンドいですよね。

一般的に引き寄せで「これをすれば叶うよ」と言われていることは一通りやってるのになかなか叶わない。。

多くの人が経験してきていると思います。

ではなぜ、

引き寄せの知識もあるのに
それなりに実践もしているのに
なかなか叶っていかないのか

それは

「気付きを得られていない」 「気付きが少ない」

からです。

気付きとは具体的にどんなものかというと

- ・ **自分の固定観念に気づいたり**
- ・ **自分を抑圧する思考（ジャッジメント）に気づいたり**
- ・ **願望実現を邪魔するマインドブロックに気がついたり**

などのことを指します。

叶う人と叶わない人に差があるとしたら、
それは「**日常的に気付きがあるかないか**」です。

気付きがある人はシンプルに叶うの早いし、
気付きが少ない人は叶うのが遅い傾向にあります。

今このマニュアルを読んでいるあなたはいかがでしょう？

「自分は気付きが多いな」と思った人もいれば、
「あまり気付きはないかな・・・」と思った人もいます。

でも安心して下さい。
これからレクチャーする「**鏡の視点**」を日常生活に取り入れてもらえれば

”叶うための気付き”を鬼のように得られるようになり

- ・ **今まで停滞していた現実が動き出す**
- ・ **タイムラグから抜け出し叶う兆候が見えてくる**

など

現実世界への影響がバシバシ出てくるようになるので、ぜひ取り入れてもらえればと思います。

では改めて
「鏡の視点とは何か？」について解説していきます。

鏡の視点とは何かというと

「他人（相手）」を通して「自分」の内なるものに気付く視点

のことをいいます。

気付きにもいくつか種類がありますが主に

- ・「自分のいいところ」「自分の才能」への気付き
- ・「自分が進むべき道」への気付き
- ・「自分の成長」への気付き
- ・「自分のジャッジメント思考」への気付き

こんなところが多いです。

よくスピリチュアルの世界では

「他人は自分の内面の反映」

だから

- ・相手を許しましょう
- ・相手を愛しましょう

的な話がありますが

今回お話する「鏡の視点」は

より実践的に、より叶えることにフォーカスしたにったん流の視点であり一般的な(?)鏡の法則とはちょっと違います。

一般的な(?)鏡の法則って僕あまり好きじゃないんですよ。

知っている人もいるかもしれませんが
「他人=自分」としてみましよう、

みたいな教えがあるから

【こいつウザ！】【こいつマジで嫌いなんだけど！】
という人間が現れた時に

「え、私ってこんなにウザい人間なの？」
「え、私ってこんなに人から嫌われるような人間なの？」
「こんな嫌いなやつを愛せるわけないじゃん・・・」
「え、愛せない自分ってやっぱ心狭いのかな・・・？」

「私の内面が悪いから、きっとこんな人達が私の目の前にいるんだ」
「私が悪いんだ・・・」

みたいになっちゃって

自分を責めてしまいがちになってしまうんですね。

教えそのものが間違っているわけじゃないんですけど、
いかんせん勘違いを引き起こしやすいのですね。

なので僕流にアレンジして

【叶えることに特化した鏡の視点】をお伝えしようと思います。

他人は、自分の感情や思考や才能を映し出す鏡

このような視点で他人を見てみると色々な気づきを得られます。

『他人を見て自分が感じたもの』

＝

- ・「自分のいいところ」「自分の才能」への気づき
- ・「自分が進むべき道」への気づき
- ・「自分の成長」への気づき
- ・「自分のジャッジメント思考」への気づき

↑これらの気づきが隠されている、ということです。

例えば

あなたの周りに「周りへの気配りが上手なムードメーカー的な同僚がいた」として、

その人を見てあなたが「あの人すごいな〜！」という感情になったら

それはあなた自身にもその力があつたり能力の片鱗があるということになります。

他人をみて「すごい」「なんか好きだ」と感じ取れるということは

自分の中に同じ要素”があるということなんですよ。

例えば僕はサッカーに対して無知で興味もあまりないのですが、

そんな僕がサッカーのドリブルのワザを見せられたところで

「あー、なんかすごそうだけど、これってすごいワザなの？」

みたいな感想を持つと思うんですが、

それっていうのは

僕がサッカーに無知で、そのワザのすごさを理解できていないからそういう反応になるわけ
です。

でももしサッカーが好きでサッカーの技術に興味があつたり、実際に上手いプレイヤーがドリブル技を見ると「おおーこの人すごい！」という反応になるはずですよ。

それは「すごい！」と反応する人の内側に

「サッカーの理解がある」「センスがある」「才能がある」「伸びしろがある」「それに近い片鱗がある」から起こる現象です。

なんとなく意味は伝わりますかね？

もう1つ例を出すと、

僕はバイク乗りなので、バイクの運転技術に関しては強い興味があります。

よくうまい人のバイクの動画を見て「うわ、この人の技量ヤバすぎ、すげー！」という反応になるのですが

それは僕がバイクの技術に対して**理解があるからこそできる反応**で、

つまりは「自分自身にもその能力があったり」「今はその能力が無くてもその才能の片鱗がある」「相手に感じたすごさの要素を自分も持っている」

ということになるんです。

絵心がない人がうまい絵を見てもなんとも思いませんが、

絵心のある人がうまい絵を見ると感動します。

それは「絵のセンス」「絵の才能」「絵の能力」

そういったものの”要素”が自分にあるからこそ反応できるんです。

つまり「他人に対して感じた”なんかいいな””すごいな”と感ずるものは、自分の中にも存在している」

ということです。

もしあなたが他人を見て「素敵だな」と感じれば、それは「あなたも同じことだよ」ということです。

この視点を持つと、自分のいいところや、自分の能力、自分の才能の片鱗にバシバシ気付けるようになると思います。

もしあなたが今後

「この人なんかいいな」
「この人なんか好きだな」
「この人尊敬できるな」
「この人すごいな」

というポジティブな反応が生まれたら

相手の良さやすごさを理解できる

=

『自分にも良さがある』
『自分にもそのすごさがある』

仮に今なくても

『その力の片鱗が眠ってる』
『その才能が眠ってる』

というふうに捉えてみて下さい。

他人を通して、自分の良さに気付く視点、
これが鏡の視点の中の1つになります。

さて、ここまでは他人を見てポジティブな反応が出た時のお話ですが、

当然、他人を見た時にはネガティブな反応が出る時もあると思います。

「こいつなんかウザいな」
「こいつマジで仕事できねーな」
「こいつほんと自分のことしか考えてないな」
「こいつちゃんと仕事しろよ」

他人に対してこんなことを感じることも多いはず。

で、ここで注意なんです

従来の(?)鏡の法則でこれらを見ると

「他人は自分を映し出す鏡」
「他人=自分」

ということは、え、まっ、まっ、！！

「あいつウザい」 = 「私はウザい」

「あいつマジで仕事できない」 = 「私は仕事できない」

「あいつ自分のことしか考えてない」 = 「私は自分のことしか考えてない」

「あいつちゃんと仕事しろよ」 = 「私ちゃんと仕事しろよ」

ってこと?!?!?!

え——、何これ私が悪いわけ?!

私の中を投影しているからそういう人が私の目の前にいるってこと?

へこむわ——

ってなりがちなんですが、

これじゃただただ自分を苦しめる視点になってしまうので
ここはしっかりとったん流にアレンジを加えていきます。

**相手にネガティブな感想を持った時には
「他人 = 自分」の思考を捨てましょう。**

捨てていいです。僕は捨ててます。

この際整合性なんかも捨てちゃいましょう。

相手にポジティブな感想を持ったら「他人 = 自分」でOK

相手にネガティブな感想をもったら「他人 ≠ 自分」でいきましょう。

だって、

もし仮に電車にのって臭くて汚いおっさんが大股ひらいて座ってて、
それを「他人 = 自分」で考えてしまったらさすがにヤバいですよね?!

「ええ、このきたねーおっさんが、、私??」

ってなりますよね。

そんなわけないですよ。普通に考えて。

鏡の視点というのは

そういう「自分を貶める視点」では決してありません。

鏡の視点はあくまで

「叶うためのヒント」「叶えるためのキッカケ」それらに気付く視点です。

つまり

極論を言うと

「自分にとって有利になることしかみていかない視点」 になります。

そんな都合のいい視点なんてアリかよって思うかもしれませんがアリです。大アリです。

ほんと、ガチで叶えまくる人ってこういう自分に有利になる思考ばっかしてます。
ずるくらい勝手な思考をしています。

でもそっちの方が楽しそうじゃないですか？

僕もこういう思考を持つようになってから人生楽しくなってきたし、願望も叶ってきてました。

「自分にとって有利になることしかみていかない視点」

こんな身勝手な視点を持って僕もいいと思うんです。
人生が豊かになるなら。

で、話を戻して

相手に対してネガティブな反応が出た時には

- ・「自分が進むべき道」への気付き
- ・「自分の成長」への気付き
- ・「自分のジャッジメント思考」への気付き
- ・「自分が望んでいるもの」への気付き

にフォーカスしていくと

叶うキッカケやヒントを得ることができます。

自分が進むべき道への気付き

例えば「口喧嘩をしている老夫婦」に遭遇した時、「うわ、、なんかイヤだな」と感じたとします。こういう時は

『何がイヤに感じたんだろう』と自問します。

そしてこんな答えが出てきたとします

- ・年をとってもこんな口喧嘩なんて嫌だな
- ・こんな老夫婦にはなりたくないな

次に

『じゃあ自分はどうなりたいかな？』と自問します。

- ・年をとってもこんな口喧嘩は嫌だな
 - ・こんな老夫婦にはなりたくないな
- 年をとっても仲良しの夫婦でいたいな

このような感じで

他人に対して「嫌なもの」を感じたとしたら、それはあなたへの「あなたはこういう道に進むべきですよ」というサインとして捉えることができるということです。

「自分の成長」への気付き

他にも他人を通して「自分の成長を促すサイン」として叶うヒントを得ることができます。

例えば職場で「ちゃんと自分の意見を言えない後輩」に少しイラッとしたとします。

「なんで自分の考えや気持ちをちゃんと言えないのかな？」
「はっきり言わないと何もわからないからさあ・」

こんなことを感じたとします。

そしたらそこで『**人のことこういってるけど、自分はどうなんだろ？**』と考えます。

特別思い当たるフシがなければスルーでもいいですが

もしかしたら仕事ではあなたはちゃんと意見や気持ちをちゃんと言えてるかもしれませんが、
プライベートの恋愛では

- ・好きな彼にちゃんと自分の意見を言えてない
- ・ちゃんと自分の思っていることを伝えられていない

などあるかもしれません。

これは「はっきり意見のいえない後輩という他人」を通して「自分の成長のヒント」を見つけることができます。

このようにネガティブな反応が出るところには、何かしらのサインが隠されています。

「ジャッジメント思考」への気付き

これも重要なのですが、
自分でも知らないうちに
「こうするべきだ」
「こうあるべきだ」
「こうしなきゃいけない」

という「べきだ思考(ジャッジメント思考)」をしていることがあります。

これの何が厄介かというと
「知らない間に”自分を苦しめる呪縛”を自分自身にかけている可能性がある」という点です。

例えば

「いつも仕事を手を抜いてテキトーにやってる人」をみて、あなたが「なんなのあいつ、手を抜きやがって」という気持ちになったとします。

そしたらすかさず、

【何がイヤに感じたんだろう】と自問します。

そうしたらこんな答えが出てきたとします↓

こっちはこんなにしっかり仕事してなのに、なんであいつはサボるんだ。
同じ給料もらってるのに不公平だろ！

- ・仕事なんだからもっとちゃんとやるべきだろ
- ・お給料もらってるんだからキッチリ働くべきだろ

ここで「べきだ思考」が見つかったら、それを注意深く観察していきましょう。

「〇〇するべきだろ！」と相手に対して思うということは、それはすなわち「自分」に対してもそういうルールを課しているということ

言い換えれば

自分を固定観念で縛っている

ということです。

相手に対して「ちゃんと仕事するべきだろ」と思うということは自分に対して「ちゃんと仕事するべきだろ」と思っているということ。

もしこの固定観念があなたを苦しめていないのなら問題ないですが

もし「本当は仕事が嫌いで嫌いで、本当はすごく辛い。でも仕事だからちゃんとやらなきゃ。でもすごくシンドい」

みたいに思っていたら、それは

自分自身を苦しめる”呪縛”でしかないということです。

鏡の視点を使えばこういうジャッジメントにも気づけます。

もしこのジャッジに自分が気付ければ

仕事の手を抜くことの善悪は一旦置いておいて

- ・ 自分も適度にサボる
- ・ 不公平感でないように手を抜く
- ・ 手を抜くけど、どこかでカバーする

↑こんな感じでうまく立ち回って仕事のストレスをちょっとでも減らす
こういうこともできるはずですよ。

相手に対して「〇〇すべきだろ」とムカッとした時は
自分にもそれを課してしまっているということを覚えておいて下さい。

「自分が望んでいるもの」への気付き

鏡の視点を使えば「**実は本当は望んでいるもの**」もみつけることができます。

例えば

「高級外車を乗り回している人」に対して「なんとなく嫌悪感を感じた」とします。

この時に

『何に嫌悪感を感じたんだろう』と自問してみます。

するとこんな答えが出てくるかもしれません

- ・高級外車乗り回して調子乗ってる感じがなんか不快
- ・高級車をドヤ顔で乗っているのが鼻につく

↑こういう感想って無意識のうちにけっこう持ってしまうと思うんですが、
こういう時って

こういう時は

実は「**自分の内側に隠された願望**」を見つけることができます。

例えばこの場合の

「高級外車乗り回して調子乗ってる感じがなんか不快」

という感想って、論理性があまりないですよね？

先程までの他人に対する「ネガティブな反応」はどれも

「ちゃんと仕事してないのに腹が立つ」

みたいに、それなりの論理的な理由があったはずですが

今回みたいに

「なんとなくイヤ」
「なんか不快」
「なんか気に食わない」

みたいな論理性が欠けている批判が自分の内側から出てくる時は

そこに

『本当は欲しているもの』の要素が眠っていることがむちゃくちゃ多いです。

例えばさっきの例でいうと

「高級外車乗り回して調子乗ってる感じがなんか不快」

=

「自分が持ってない高級外車に乗っているのが許せない」

=

「自分がないものを持っているのが許せない」

=

「本当は自分も手に入れたいと思っている」

という感じで、

「本当は望んでいるけど、今現状手に入っていないから嫌悪感を示しているだけ」

なことがすごーーーーく多いのです。

これは昔の僕の話ですが

僕が恋人が全然できずにいた時は、恋愛がうまくいかないのを理由に「恋愛をバカにしていた」時期がありました。

イチイチチャしてるカップルを見たら

「こんな公衆の面前で馬鹿じゃないの？」とか思ってたし

「どうせこんな奴ら互いに依存しまくってるアホだろ」とか

論理性の欠片もないわけわからん嫌悪感を持っていたことがありました。

でもこれは

『**本当は欲しいけど自分は持ってないものを持っている、その他人に対する嫉妬**』

であり、

裏を返せば「**本当は望んでいるもの**」なんですよ。

望んでいなきゃいちいち気にも止まらないはずなのです。

他にも

よくネットニュースやYou Tubeのコメントにも多いですが

「お金持ちの人間」に対して「金持ちはろくでもない」「金持ちは悪いことしている」
みたいな非論理的な批判をしている輩がいますが

これもまごうことなき「嫉妬」ですよ。

「**本当は望んでいるけど、今現状手に入っていないから嫌悪感を示しているだけ**」です。

このように、

「他人を見てなんとなくモヤっとする時」というのは、

**相手に嫌悪感があるのではなく、
それを手にしていない自分に嫌悪感がある**

ということなんですよ。

こんな感じで

他人（相手）を通して”自分が実は望んでいるもの”に気付くことができる

これが鏡の視点のいいところになります。

人生を豊かにする最初のステップは「素直さ」です。

本当に望んでいるものに素直になる
意固地にならないで素直に欲しいものを「欲しい」と意図する

これこそ人生好転のカギです。

「求めよ、さらば与えられん」です。

まずは『**自分が求めているものに気付く**』。

鏡の視点ではこの求めているものに気づける視点となっております。

～叶う気づきを得る”鏡の視点”まとめ～

鏡の視点とは

「他人（相手）」を通して「自分」の内なるものに気付く視点

- ・「自分のいいところ」「自分の才能」への気付き
- ・「自分が進むべき道」への気付き
- ・「自分の成長」への気付き
- ・「自分のジャッジメント思考」への気付き
- ・「自分が望んでいるもの」への気付き

↑こんな気付きを得られる
この気付きが”叶うキッカケ”になる。

他人は、自分の感情や思考や才能を映し出す鏡

「他人に対して感じた”なんかいいな””すごいな”とを感じるものは、自分の中にも存在している」

相手の良さやすごさを理解できる

=

『**自分にも良さがある**』

『**自分にもそのすごさがある**』

仮に今なくても

『その力の片鱗が眠ってる』

『その才能が眠ってる』

相手にネガティブな感想を持った時には 「他人=自分」の思考を捨てましょう。

相手にポジティブな感想を持ったら「他人=自分」でOK

相手にネガティブな感想をもったら「他人≠自分」でいきましょう。

相手に対してネガティブな反応が出た時には

- ・「自分が進むべき道」への気付き
- ・「自分の成長」への気付き
- ・「自分のジャッジメント思考」への気付き
- ・「自分が望んでいるもの」への気付き

「なんかこの人嫌だな」と感じる時は

- ・自分の進むべき道を示してくれている
- ▶自分を顧みて成長する機会を与えてくれているのかもしれない

「〇〇すべきだ！」と他人に感じる時は

- ・自分が「べき思考に囚われている」
- ▶そのべき思考で自分が苦しんでいることを教えてくれているのかもしれない

人に「なんか気に食わない」と感じる時は

- ・それを手にしていない自分に腹が立っている
- ▶自分が望んでいるものを教えてくれているのかもしれない

以上が鏡の視点になります。

日常生活でかなり実践的に使えるので
ぜひ活用して叶うヒントや気付きを得まくって下さい！！

■【編集後記】

さて本コンテンツは以上になりますが、いかがでしたでしょうか？

- ・「ネガティブ＝悪」のジャッジをなくす
- ・「不安でも叶う」体質になる潜在意識書き換え
- ・「吐き出しの極意」ブレインダンプ
- ・「感情を受け流す」自己観察
- ・「答えは相手の中に」鏡の視点
- ・「叶う許可」を出す思考
- ・タイムラグ突破のルーティン

かなりボリューム多かったと思います。

ぜひみなさんのペースで学習&実践してもらえればなと思います。

これから、みなさんが願望を叶えていく上で、

もしかしたら

「このタイミングでこんな現実来る?!?!」

と頭を悩ませるような出来事が起こるかもしれません。

いや、起こらないことに越したことはないんですが、

■本当に大切なことを知るべき時

■「目醒め」なければならない時

↑こういう時には「うわ、エグ、、、」という現実が降りかかってくることも多々あります。

ちなみの僕はこのパターンに属している人間であり、引き寄せ発信をしている側でもなお、現実にはボコられることが多々あります。

やめてくれーって思いますが、僕はどうやら心底ダメージをくらわないと変わらない人間みたいです。笑

子どもの頃、たしか小学1年生くらいだったでしょうか？

僕は小1にも関わらず「指しゃぶり」をしてました。

指をしゃぶりすぎて親指にタコができるレベルで指しゃぶってました。

母親には何度も注意されていました。

「歯並び悪くなるよ！」とか

「7才にもなって恥ずかしいよ！」とか

色々言われてたんですが、僕は聞く耳もたず、

「別にいいじゃん」と無視してました。

ある時歯医者に行くことになり、

お医者さんが僕の親指のタコを見て察したようで

すげー人を馬鹿にするような口調で

『まだ指しゃぶってるの？』

とニタニタした顔で言ってきたんです。

もうね、恥ずかしいのなんの。

子どもながらにすごくショックで、

それ以降二度と指しゃぶりをしなくなりました。

荒療治というんでしょうか？

子どもの頃の話ではありますが

こういう「グッサリくる現象」があるからこそ、

人は成長できるんですよ。

大人になってからの恋愛もそうでした。

「彼女が欲しい」「恋人が欲しい」

そう思っても、

フラれてばっかの人生で

「あ、自分は誰からも必要とされていないんだな」

と思うことは100万回はあった。

悲しくてたまらなかったし、

自分の無価値感すごいし、

生きてる意味もわからない、

そんなことを何度も感じるような出来事もいっぱいあった。

でも、その「シンドい出来事」のおかげで

- ・くそ、このまま終わってたまるか！！
- ・冗談じゃない！こんなクソみたいな人生ぶっ壊してやる！

そう本気で思えた。

だからこそ、

本当に叶えたかったことを叶えることができたし、

クソみたいな過去があったからこそ

「今がどれだけ恵まれているか」

を理解できるし

『今までの全てが無駄じゃなかったんだ』

そう本気で思える気がする。

怖いことを言ってしまうようで申し訳ないが、

もしかしたらみなさんが本気で願望を叶えようとする時、

それと真逆の現実が襲ってくるかもしれない。

でもそれには必ず意味があるんです。

あなたを目覚めさせる、本気にさせる、

あなたを幸せに導くための意味がある。

『叶う資格がある』

だからこそ起こる。

叶う資格があるから、
叶う素質があるから、

だから**試されている。**
器を広げるために。

だからどうか、

目の前の現実がシンドくても諦めないで欲しい。

下手くそでいい、

泥臭くていい、

かっこわるくていい、

あがいて欲しい。

なにくそ！と奮い立って欲しい。

冗談じゃねえとブチ切れて欲しい！！

あなたにならできるから。マジで。

この”物語”の主人公はあなただ。

あなた以外にいない。

あなた以外全部脇役。

にったんなんてそこらへんの塵芥にすぎない。

あなたがあなたの物語の王（女王）。

だから最後に一言だけ言わせて欲しい。

あなたならできる！！

ここまで頑張ってきたじゃないか！！

もし目の前がどん底だったとしても

あなたなら乗り越えられる！！

だからどうか、

「今までのこと」をなかったことにしないで欲しい。

辛い過去も、嫌な記憶も

あなたを幸福へ導くための「糧」にしてほしい。

転んでもいい。立ち止まってもいい。

泣いてもいい。嘆いてもいい。

でもあなたならできるはずなんだよ

絶対にできるはずなんだよ！！

幸せになるべき人間なんだよ！！

だから目の前のクソみたいな現実になんて負けんな！！

あなたを否定するものなんかに負けんな！！

ネガティブな感情を味方につけろ！！！！

ネガティブな現実から学び取れ！！！！

転んでもタダで起きるんじゃねえ！！！！

10倍返して幸せを掴み取れ！！！！

あなたの人生の逆転を祈ってます。

あなたの人生の成功を願っています。

につたん